



作文2部

「私の田植えポート」

福井県福井市立西藤島小学校五年

城下春香

「うわあ。あつたかい。」

ここは、福井市高須町の棚田。今、私は田植えの真っ最中だ。今年の春、私の家は福井市のぼ集する『棚田のオーナー』に参加した。地元の農家の人たちのお世話になりながら、きれいなわき水で、減農

薬のおいしいお米を作るのだ。田植えの日はとても寒かつたが、土の中は意外に温かかった。イネの苗は、こんなところで育つのだから気持ちがいいだろうと思った。

田んぼの中には、格子状に線が引いてある。一つの辺は二十センチメートルぐらい。その四角の角、つまり線と線が交わったところに

苗を植える。苗は、根がからまつていて芝生を二十センチメートル四方くらいに切りとつたような形にしてある。はじめにそれを田んぼのあちこちに放り投げた。と中で苗が足りなくなつたときのためだ。そこから四、五本ずつ取りながら植えていく。苗と苗の間に足をふみ入れて、横に三、四列ずつ植えながら前に進んでいく。ときどきよろけて苗をふんでしまいそうになる。あぶない、あぶない。田植えを教えてくれている地元のおばちゃんはスイスイと植えていくのに、わたしあちつとも進まない。でも、早く進むと転んでしまいそう

なので、ゆっくりやることにした。根がぬけてしまわないように、なるべく深くていねいに植えた。植えていると、水の中に黒いものがいる。オタマジャクシだ。久しぶりに見た。

「こんなところにいたら、ふんじやうよー。」何とかよけながら進む。ビルもいた。お父さんははだしだつたので、かまれてしまつた。

ずっと前かがみで植えていたので、こしがすごくいたくなつた。ころびそになつて手をついて、ひじまでどうだらけにもなつてしまつた。でも、ふと思った。

「この田んぼのどろは生きているからね。」

と、お母さんが言った。この田んぼには、オタマジャクシやビルだけでなく、たくさん生き物がすんでいるらしい。田んぼのどろは、生き物たちによって混ぜられている。地元の人たちも、農薬をなるべく使わず、いつしょくんめい手入れしている。生きているというのは、こういうことだ。

やつと田植えが終わつた。長ぐつは、けつこう長さがあつたのに、くつをこえてズボンまでどろがついていた。近くのわき水の用水路で手と足を洗つた。汗だくだったので、冷たい水がとても気もちいい。用水路のわきには、ワサビやフキがたくさん生えていた。

田植えは大変だつたけど、あのときがんばつてよかつたと思うようないいしいお米になつてほしい。田んぼは遠くて、なかなか様子を見に行けないけれど、今ごろぐんぐんと元気に育つているだろう。稻かりが楽しみだ。がんばれ！ 私たちのイネ!!